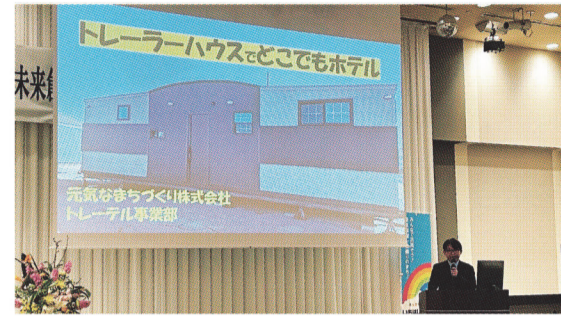


取引先拡大につながる、新しい事業者支援のかたち

市原未来創業プロジェクト 手厚い支援の舞台裏に密着

市原商工会議所
×
CHIBANIPPO DIGITAL

「市原未来創業プロジェクト」は、市原商工会議所と千葉日報デジタルがタッグを組んで展開する「新しい事業者支援」の取り組みです。昨年度参加した10人の事業者(創業者含む)は、販路拡大・取引先拡大をできるだけ早く実現するため、1カ月半の短期集中でプロジェクトに取り組んできました。ここではプロジェクトがどんな流れで進んできたかの舞台裏を時系列で振り返ります。

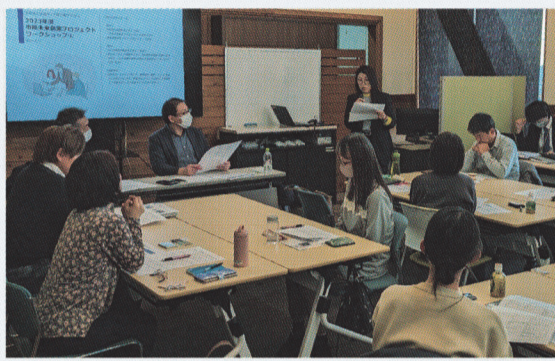


プロジェクトのスケジュール

1月下旬

1 ワークショップ 話題性を見つける

プロジェクトはワークショップから始まります。市原市内の事業者(創業者)10人が集まり、1回2時間かけて自己紹介や事業内容の説明をしてもらいます。進行役を務める千葉日報デジタルが「いかにメディア視点で話題性があるか」という切り口から、事業者の「話題性」をまずは見つけ出していきます。ワークショップは1週間後に2回目を行い、さらに話題性を深掘りしていきました。ここでは各事業者の「話題性」を見つけるだけでなく、今後地域とともに事業をしていく仲間をコミュニティ化する狙いもあります。



2月上旬・中旬

2 個別相談 話題性を魅力に変換する

ワークショップで見つけた事業の話題性を、対外的に伝えやすい「魅力」に変換します。そのために千葉日報デジタルが「情報発信の専門家」の立場で、各事業者との個別相談を1週間おきに3回行いました。最初に見つけた話題性について「なぜその事業なのか」「他と比べてどう特徴的なのか」「どんな社会的・地域的な意義があるか」などを事業者と議論し、事業の「本質的な魅力」を形にしていきました。同時に、ビジネスオーディションでのプレゼンに向け、プレゼン内容の構成も一緒に作り込んでいきました。



2月下旬

3 プレゼンレッスン 魅力を磨き上げる

3回の個別相談で形にした事業の「本質的な魅力」と、それに基づくプレゼン内容をさらに伝わりやすく磨き上げるためプレゼンレッスンを2回行いました。ビジネスオーディションでは会場に50人規模の取引先候補(経営者、金融機関等)が来場します。その来場者に「すぐ取引を検討したい」と思ってもらえるよう、分かりやすく、かつ魅力的に伝えることを意識して、話し方や身振り・手振りまで含め千葉日報デジタルが指導しました。こうしたプレゼンの経験は事業者の今後の営業活動でも役に立つことを狙っています。



3月2日

4 ビジネスオーディション 魅力を発信する

プロジェクトの集大成として取引先候補と出会うためのイベント「ビジネスオーディション」を開催しました。経営者や金融機関等の取引先候補の約50人を前に、事業者は8分間のプレゼンを行い、来場者全員が「うちわ」の表裏で内容を審査しました。各事業者のブースを設け、プレゼンと連動する形で見込み客・取引先候補の獲得ができる仕掛けも取り入れています。単に事業プランの優劣を競うのではなく、事業者が自社の「魅力」を適切に発信することで新たな取引先候補と出会うことを目指してイベントは運営されました。



ゴール 事業者の円滑な取引先拡大へ

参加者・主催者から手厚いサポート体制へ「感謝の声」続々

第2回ビジネスオーディション グランプリ

元気なまちづくり株式会社
深山 康平さん



第三者視点のアドバイスで 事業が明確に

トレーラーハウスを活用したホテル事業をプレゼンしましたが、このプロジェクトに参加することで改めて自分たちの事業を見つめ直すことができました。自分たちでもコンセプトが曖昧な部分があったのですが、千葉日報デジタルさんと議論を重ね、第三者目線でアドバイスをいただくうちに、事業の方向性が明確になりました。プレゼンも初めてで最初はすごく緊張していましたが、プレゼンレッスンや会社でも練習するうちに自信が持てました。グランプリを取ったことはモチベーションになりますし、事業責任者としてしっかりやらないとという気持ちにもなれました。

今後も伴走型支援に全力

榎原 義久・市原商工会議所会頭

市原商工会議所は創業支援のさまざまな取り組みを行うことで創業者が増えており、県外から視察を受けるなど評価を得ています。創業者を伴走型で支援していくことで、今後も地域経済活性化に向けて全力で取り組んでいきます。

皆さんの提案聞いて感動

小出 譲治・市原市長

市長として、創業に挑戦する市民が増えて市原市が活気あふれる街になることを望んでいました。市原商工会議所と行政が連携してこういう形ができ、賛同して参加してくれる方が増えてきました。皆さんの提案を聞いて感動しました。

市原商工会議所
産業振興部中小企業相談所 課長補佐
藤田 朋範さん



域経済活性化へ 創業者支援を継続

2年目の取り組みで前回の反響が大きかったこと、創業者支援拠点である市原市産業支援センターの利用者に声を掛けたことなどもあり、参加申し込みが倍増しました。市原市、市原商工会議所がテーマに掲げる創業の機運向上が少しずつ形になってきた手応えがあります。連携してプロジェクトを進めている千葉日報デジタルが「事業の何を売りにしたらいいか」「関心のない人にどう興味を持ってもらうか」という第三者視点でアドバイスしてくれるのは、私たちや事業者自身ではできないことなので、とても効果的に感じています。今後の地域経済活性化のためにも、創業者支援に引き続き取り組んでいきたいと思っています。

経済団体の皆さま、自治体商工担当の皆さま

千葉日報デジタルと一緒に、
新しい事業者支援に
取り組んでみませんか？



舞台裏をご説明する資料を
差し上げます！

株式会社千葉日報デジタル
(事業者支援担当)

電話 043-227-0000(ゼロ四つ)

メール info@chibadigi.com

問い合わせ